

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 すみれの里)

事業所番号	0270400229		
法人名	社会福祉法人 すみれ会		
事業所名	すみれの里		
所在地	青森県黒石市馬場尻南61-5		
自己評価作成日	平成22年10月2日	評価結果市町村受理日	平成23年3月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・温泉をひいており、いつでも入浴出来る。また、庭には足湯もあり、いつでも利用出来る。 ・家庭的な雰囲気を保ち、一人ひとりのペースで自由な生活を送っていただけるよう支援している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.aokaigojyouho.jp/kaigosjp/infomationPublic.do?JCD=0270400229&SCD=320>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、同法人の特別養護老人ホームとデイサービスセンターに併設されており、互いの利用者同士の交流や重度化した利用者への特別養護老人ホームと連携した対応等、運営や事業推進に当たり連携を図っている。</p>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成22年12月8日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

※複数ユニットがある場合、外部評価は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの役割を理解しており、理念に反映させている。	管理者・職員は地域密着型サービスの役割を理解し、全員で話し合っ役を反映させた独自の理念を作成した。また、理念を掲示し、機会あるごとに確認を行い、共有化を図ることにより、日々のサービスに反映させるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の運動会や夏祭りに参加したり、職員が町内の草取りや、側溝の清掃を行い、地域交流を図っている。	町会に加入し、気軽に立ち寄ってもらえるよう働きかけ、地域の行事に利用者が参加したり、法人が行う行事に地域住民にも参加してもらうことで交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者のプライバシーに配慮した上で、実習生を受け入れたり、見学者、実習生には認知症の方への支援方法を説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回開催しており、報告や情報交換、自己評価、外部評価の結果を報告している。	会議では、運営に関する意見を出してもらおうと共に、自己・外部評価について、結果や明らかになった課題への取組みを説明してサービスの向上につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域密着型サービス事業者連絡会に参加し、協力関係を築いている。また、評価結果を提出し、連携を図りながら質の向上に取り組んでいる。	市へ自己・外部評価の結果や課題への取組みを報告しているほか、市担当者が出席する地域密着型サービス事業者連絡会議に参加し、課題等について連携して取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	園内研修を通じて、身体拘束の内容や弊害について理解しており、身体拘束を行っていない。	身体拘束は行わないという姿勢を明示し、内部研修等で身体拘束の内容や弊害について理解を深め、日々のケアに取り組んでいる。また、居室や玄関は施錠しておらず、アラームで外出傾向を察知し、見守りや付添いを行っている。やむを得ず身体拘束を行う場合は、家族等から同意を得て、記録を残す体制になっている。		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	園内研修を通じて、虐待について理解を深めており、虐待を行わないケアを心がけている。			
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している</p>	内部研修で日常生活自立支援事業や成年後見制度についての理解を深めている。			
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	契約時には、重要事項説明書を用いて説明を行い、同意を得ている。			
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	意見箱を用意したり。会話の中で意見や要望を聞き出している。	利用者の意見は日常の会話や観察で把握に努め、家族等には、意見を出しやすいよう利用者の暮らしぶり等を報告しているほか、外部にも意見が話せることを説明している。また、出された意見は速やかに検討し、運営に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、運営会議や、ケース会議を行っており、話し合いの場を設けている。	管理者は職員会議等で意見を聞き、必要なものは法人の運営会議で検討して運営に反映させている。また、勤務体制は職員の意見を聞きながら検討し、異動があった場合は利用者に影響がないよう引継ぎを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	健康診断や腰痛検査を定期的実施している。また、業務の多忙さ、人手不足等、労働環境についても見直している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や園内研修を通して、職員の質の確保、向上に向けた育成を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	黒石市地域密着型サービス事業者連絡会を通して、同業者との交流を図っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接調査時、本人の希望等を聞き出し、ケアプランに反映させている。また、安心できる雰囲気作りを行い、信頼関係を築く。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接調査時、家族の希望等を聞き出した後、家族の思いを受容し、信頼関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人と家族のニーズに対し、何が必要かを見極め、柔軟に実行している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活において、それぞれ役割活動を持ち、生き活きとした生活を送っている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いを受け止め、一緒に入居者を支えていく関係を築いている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのある場所へドライブに出掛けたり、電話や手紙での連絡を取りもつなど、支援している。	入居前のアセスメントや日々の関わりの中で馴染みの人や場所を把握し、知人等との電話や手紙での連絡を取り持ったり、希望する馴染みの場所に出かけられるよう支援したりしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	役割活動やいろいろな作業を通して、入居者同士が協力し、支え合っている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、相談や支援に応じる姿勢を示している。			

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族から希望や意向等を聞き出し、把握するよう努めている。	職員は、自分が担当する利用者とのコミュニケーションを密接にして希望や意向の把握に努めるとともに、十分に把握できない場合は、全職員で把握に努めている。また、必要に応じて家族等からも情報収集を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴等について、本人や家族から情報収集を行ったり、回想法を通じて、ライフスタイルを把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態や生活リズムも把握しており、一人ひとりの能力に合った活動や、作業を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人と家族から意向を聞いた中で、職員間で十分話し合い、介護計画を作成している。	介護計画は、利用者や家族等の意見、全職員の意見を基に職員間で話し合い、個別具体的なものを作成している。また、計画は、定期及び必要に応じて随時、モニタリングや再アセスメントを行って見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日ケース記録、看護記録等で、情報を共有し、モニタリングを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況や、要望に応じて今までの暮らしが、継続できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	併設施設と合わせ、防災訓練時に消防署の協力を仰いだり、警察による交通安全指導や地域の小学校との交流も図れている。			
30	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	週1回、協力医療機関の精神科医に訪問して頂いているが、希望により、かかりつけの医療機関も受診している。	利用者の受療状況を把握し、希望する医療機関や認知症の専門医を受診できるよう支援しており、家族等も含めて医療機関との情報交換を行って受診結果を共有するようにしている。		
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	看護職員を配置しており、日常の健康管理を行っている。介護職員も入居者の身体状況に変化が見られた時は、報告し、連携を図っている。			
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	入院の際は、面会時や電話等で入院状況を聞きだし、家族を含め、退院に向けた情報交換を行っている。			
33	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	入居時介護及び看取り介護の対応について説明し、同意を得ている。重度化が予想される場合は、早期に家族と話し合い、併設の特養に施設移動して頂いている。	重度化した場合や終末期は、利用者や家族等、医療機関と連携を図りながら支援体制を整備して対応することを指針で定めている。また、対応の方針について、利用者や家族等、医療機関と早期からの話し合いを持ち意思統一が図られている。		

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成しており、応急手当や初期対応については、看護職員から指導を受けている。		/	
35 (13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中、夜間を想定した避難訓練を毎月行っている。また、総合防災訓練の時は、消防署や地域の方に協力を得ている。		職員と利用者が一緒に毎月避難訓練を行っていて、夜間を想定したり、消防署や地域住民に協力してもらっている。また、消火設備や避難路の定期的な点検、災害時に備えた物品の備蓄も行っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36 (14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重した言葉かけや、さり気ない介助を行っている。		職員は利用者の話をよく聞き、丁寧なことばを遣い、羞恥心に配慮したさり気ない介助、プライバシーへの配慮等に心がけている。また、利用者への対応で、管理者や職員が気になる点があれば、話し合い改善するようにしている。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行事や活動への参加、決め事は、常に入居者と話し合い、自己決定を促す場面作りを行っている。		/	
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースに合わせて、自由に生活して頂けるよう配慮している。		/	
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者と一緒に衣服を選んだり、化粧を行い、おしゃれが出来るよう支援している。		/	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立のほかに、入居者が買い物にて好きな物を買って食べる事が出来るよう支援している。昼食準備、片付けは一緒に行っている。	利用者の好みを取り入れて献立を作成し、食事の準備や片付け等、利用者ができることは職員と一緒にしている。また、職員は利用者と一緒に会話をしながら食事を共にしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士がバランスのよい食事を献立に取り入れている。入居者の一日の食事や水分の摂取量を把握しており、個々の状態に応じて食べやすい工夫している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の力量に応じて、一緒に口腔ケアを行っている。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄記録で排泄パターンを把握し、トイレ誘導により、排泄の自立を促している。紙パンツから布パンツへ2名移行した。	一人ひとりの排泄パターンを記録・把握し、事前誘導を行う等、自立に向けた支援を介護計画にも載せて行っている。また、おむつ等を使用している利用者が使用を継続するか否かの検討をケース会議で行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取、適度な運動により自然排便を促しているが、便秘時は個々に合わせた量と頻度で下剤を使用している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日、一人ひとりの希望に合わせて、入浴の支援を行っている。	利用者の入浴習慣をアセスメントで把握し、希望にあわせて入浴できるよう支援している。職員は利用者の羞恥心に配慮しながら、個々に応じた声がけや見守り、介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>日中、適度な運動や活動を取り入れ、安眠に繋がるよう支援している。</p>			
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>薬の種類、用量は看護記録に記載されており、周知している。薬の変更時は、状態観察に努め、記録に残している。</p>			
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>一人ひとりの生活歴や趣味を把握しており、趣味活動や役割活動に活かしている。</p>			
49	(18)	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>買い物やドライブを行い、気分転換を図っている。また、家族の協力を得て、外出する機会をつくり支援している。</p>	<p>利用者の希望を取り入れながら、個々の散歩や買物等を支援したり、ドライブや地域の催し物見学等、外出行事を行ったりして、できるだけ外出機会を作るようにしている。また、利用者の希望に応じて、家族に協力を呼びかけて外出を支援してもらっている。</p>		
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭は事務室で預かっており、必要な場合は本人へ渡している。</p>			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	プライバシーに配慮し、自ら電話で話ができるよう支援したり、手紙を出し支援している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気を保ち、共用の空間は不快な音、光がないよう注意している。玄関、廊下には花を飾り、季節感を取り入れている。	室内は適度な明るさ、温度、湿度が保たれており、居間は天井が吹き抜けて開放感があり、茶たんすやソファ等を置いて家庭的な雰囲気に配慮している。また、食堂の壁には、利用者が作成した季節が感じられる書や貼り絵等の作品を飾っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で自由に過ごしたり、リビングで入居者同士、思い思いに過ごしている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前から使用している、なじみの物を持ってきてもらうよう家族の協力を得ている。	利用者は、家具や仏壇等、入居前から使用していた物を自由に持ち込んでおり、持込みが少ない場合は、職員と一緒に利用者の作品を飾る等して居室作りを行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すり等の福祉用具や車椅子等を用意している。入居者の身体状況の変化に応じて、その都度、環境改善を行っている。			